

「官報」からみる西原

西原町史編集室では、八月の広報で紹介したように戦前の「官報」から、西原関係の記事を拾い出す作業を続けています。沖縄関係の記事だけでも、約十万余あるという資料を一枚一枚めくっていく作業です。西原関係を見落とさないよう、小さな文字とにらめっこしています。その中から、見つけた記事を紹介しましょう。

<p>明治二十一年十月三日付西原間切小那覇村ニ巡查出張所ヲ設置シ首里警察署ヨリ巡查ヲ分遣セリ</p>	<p>明治四十三年十一月七日付無限責任西原村信用購買生産販賣組合設立登記</p>	<p>昭和五年十二月十日付昭和五年十二月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務を開始ス</p>
<p>名称</p>	<p>位置</p>	<p>西原郵便局 中頭郡西原村</p>

産業関係で興味深いのが次の記事です。

明治二十二年七月二十五日付豚傳染病 西原間切ニ於テ流行病發生シテ漸次他ノ地方ヘ蔓延シ患畜総計七百四十九頭ニ及ヒ其内全治六百一頭斃死百四十三頭アリ

「官報」では、各地で発生する人や家畜の伝染病について、詳しく載っています。また、商業登記では、昭和四、五年が特に多く、西原各地から届けが出されていました。

妻登記  
一妻ノ氏名住所□□ノ妻△△  
一営業ノ種類 牛馬豚山羊飼育 販売業  
一営業所 西原村字◇◇×番地  
右昭和〇年〇月〇日登記

営業の種類は、牛馬などの販売だけでなく、「米大豆昆布素 麵石油泡盛学用品販売業」や「牛乳搾取販売業」などがありました。

女性が事業をする場合、右のような形式で□□ノ妻△△と登記されていました。

商業登記の中には、昭和五年十月に中城村和宇慶の女性が、小那覇で「和服洋服ミシン仕立販売業並ニ文具類雜貨類販売業」の営業をするための登記がありました。戦前、小那覇は軌道馬車の中継地にあたり、西原でもつとも賑やかな通りでした。そんな小那覇には、きっと他の地域からでも、働きにくる魅力があったのでしょね。

今回、紹介したのは「官報」の中でもほんの一部です。その記事から、当時の西原の様子が見えるのではないのでしょうか。産業関係以外にも、まだまだ西原に関する記事がたくさんあります。現在も整理作業は進められています。早くみなさんと昔の西原を語り合えるように、資料との格闘に励みたいと思います。

